

サンドームせんだい竣工

県内最大 全天候型運動広場

川内市総合運動公園全天候型運動広場「サンドームせんだい」が6日、竣工。加藤憲一県土木部長（県知事代理）はじめ国会議員、県議、校区体育協会関係者ら約110人が出席して記念式典を開いた。



自然採光を取り入れ、最高高さ約24m、コート面60×60mは県内最大＝川内市総合運動公園で

森卓朗市長は「街づくりの基本は健康あればこそ。老若男女が天候に左右されず、計画的に練習し、利用できる施設で、県内最大の多目的運動広場です。川内7万人市民の熱い期待に応えられるものと確信します」と述べ「高度な技術と無事故無災害で建物を立派に完成させていただき深く感謝申し上げる」と工事関係者をねぎらった。新武博同市建設部長が経過報告。また設計・工事関係者には感謝状が贈られた。



さらなる飛躍を誓った感謝祭＝鹿屋市のホテル太平洋温泉で

丸栄建設（徳留聖一社長、鹿屋市）と協力会社・丸栄共栄会（会長・小林正夫丸栄建設社長）は3日、鹿屋市のホテル太平洋温泉で安全週間に合わせ安全大会と感謝祭を開いた。イリスホーム社員や協力会員ら約80人が出席し、さらなる安全と飛躍を誓った。

冒頭、徳留社長は「住宅総合展示場『丸栄コミュニティプラザ』を開設し、お客さまの要望に応えるべく体制を整え、さらなる飛躍を誓った。14社と社員9人（勤続8年以上15年未満）に徳留

社長が表彰状と金一封を贈った。このあと、懇親会に移り新入社員紹介などがあられ、会員や社員らは懇親を深めた。表彰者は次の通り。

共栄会・アイカ工業（岩元新建材店 岡崎電気 キューハウ 共栄石油ガス） 木場建築（坂下組 下村工業 曾山工業 徳田板金塗装店 東建築 福岡工業）（丸マルセン 丸美建設）個人・新原正子（丸栄建設） 東郷正和（同） 吉原秀臣（同） 堀口達郎（同） 富士田康紀（同） 井手添勇（同） リアス） 山中和（同） 福岡正巳（同） 大野久年（同）

さらなる安全誓う

丸栄建設・丸栄共栄会 安全大会と感謝祭



暑さをものともせず検定に挑む受検者＝国分市の県人材育成センターで

技能士目指し30人挑戦

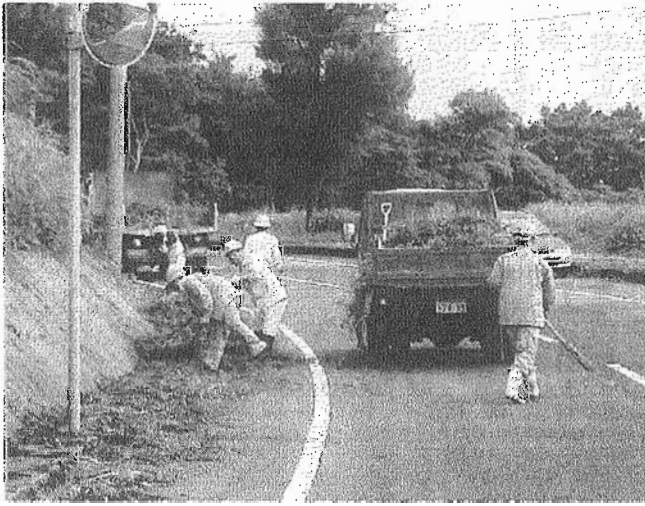
県職業能力開発協会（県山博美会長）は7日、国分市の県人材育成センターで、16年度前期技能検定路面標示施工職種実技試験を実施し、県交通安全施設工事業協会（重吉孝二会長）の会員をはじめとする約30人が、技能士を目指して挑戦した。

検定は受検者を3組に分けて作図30分、打ち切り35分、塗装35分、打ち切り40分の日程で実施され、検定員を務める協会員や県警察本部の森則幸交通規制課課長、森則幸長補佐は、テストピースの塗膜厚やガラスビーズの使用量など、厳しくチェックしていた。

当日は気温30度を超える猛暑に加え、施工機の保温バーナーの熱気で会場は蒸し風呂のような暑さ。受検者は流れる汗もそのままだに、真剣な表情で挑んでいた。参加者の

徳之島建設業協会奉仕作業

トライアスロン前に清掃



作業に励む参加者

徳之島建設業協会（久保武二会長）はこのほど、「第17回トライアスロンIN徳之島」大会を前に、大会が実施される県道及び農免道路の草刈りや道路清掃などの奉仕作業を行い、地域住民に感謝された。

当日は、徳之島町（3班）、天城町（2班）、伊仙町（2班）の3地区に会員95社から総勢220人が参加した。作業を前に各担当班から作業範囲や作業上の注意事項等を説明し、各班長から「毎年恒例事業として実施していますが、大会に参加した人が気持ちよく過ごせるよう、心のこもった作業をお願いしたい」と挨拶。参加者はトラクタ等により込みそれぞれ作業場所に向かった。作業は道路脇の草刈りや空き缶拾いなどの担当に分かれ行われた。早朝から真夏のような太陽が照り付け、刈払機やほうき、ごみ袋などを手にした参加者は、滴る汗をぬぐいながら、終日黙々と作業を続け、道路は見違えるようにきれいになった。

土地改良施設保全奉仕作業

約3時間1.1キを除草



生き茂った雑草を懸命に伐採する参加者＝金峰町の現地で

金峰町建設同志会（前田健司会長）は3日、県農林振興技術連盟日置ブロック、日置地域農業農村整備事業推進協議会などが主催・協賛する、16年度土地改良施設保全奉仕作業に参加。町役場職員、近隣住民ら約50人と一緒に、日置郡金峰町阿多地区を流れる御新田川管理道路沿い1.1キの除草作業をボランティアで実施した。

この活動は、県が策定した「21世紀新こしま総合計画」の取り組みを受け、土地改良区の運営に各担当班から作業範囲や作業上の注意事項等を説明し、各班長から「毎年恒例事業として実施していますが、大会に参加した人が気持ちよく過ごせるよう、心のこもった作業をお願いしたい」と挨拶。参加者はトラクタ等により込みそれぞれ作業場所に向かった。作業は道路脇の草刈りや空き缶拾いなどの担当に分かれ行われた。早朝から真夏のような太陽が照り付け、刈払機やほうき、ごみ袋などを手にした参加者は、滴る汗をぬぐいながら、終日黙々と作業を続け、道路は見違えるようにきれいになった。

1人は「初めての作業で、緊張した。大変難しかった。終わってほっとしている。試験が実施され、10月5日と単一等級技能士に認定される。

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ